

小説・戯曲

つじ はら のぼる
辻 原 登

(本名 村 上 ひろし
博)



推薦理由

氏は、特に芥川賞を受賞した「村の名前」(平成2年)以降、現在まで途絶えることなく、充実した作家活動を持続してきた。一作ごとに未知の領域に果敢に挑戦し、^{かつもく}刮目すべき成果を積みかさねてきた事績は、ひろく認められるところである。各種の類型の人物を造型して、現代的な人間の存在の在り方を多面的に探究する作品群は、現今の日本の小説の水準を大きく引きあげる役割を十分に果たしているし、若い世代の作家に大きな影響をおよぼしてもいる。また、西洋の近代小説の特質を新しい視点から読み直す評論活動も、高度の文学的見識に裏づけられた業績と評価されるにふさわしいものである。

【略歴】

昭和20年12月15日 和歌山県生まれ 71歳

昭和42年 文化学院文科卒業

平成11年 織田作之助賞・大賞選考委員(現在まで)

平成12年 東海大学文学部教授(同23年まで)

平成18年 日経小説大賞選考委員(現在まで)

平成20年 三島由紀夫賞選考委員(現在まで)

平成21年 川端康成文学賞選考委員(現在まで)

平成22年 (社)日本文藝家協会理事(同26年常務理事, 現在まで ※同23年公益社団法人へ移行)

平成24年 神奈川近代文学館館長(現在まで)

平成25年 司馬遼太郎賞選考委員(現在まで)

平成25年 読売文学賞選考委員(現在まで)

【賞歴】

平成2年 芥川龍之介賞(「村の名前」に対して)

平成11年 読売文学賞小説賞(「^{と きりん}翔べ麒麟」に対して)

平成12年 谷崎潤一郎賞(「^{ゆうどうていえんぼく}遊動亭円木」に対して)

平成17年 川端康成文学賞(「枯葉の中の青い炎」に対して)

平成19年 大佛次郎賞(「花はさくら木」に対して)

平成22年 毎日芸術賞(「許されざる者」に対して)

平成23年 芸術選奨文部科学大臣賞(「闇の奥」に対して)

平成24年 司馬遼太郎賞(「^{だったん うま}韃靼の馬」に対して)

平成24年 紫綬褒章

平成25年 伊藤整文学賞(「冬の旅」に対して)

平成25年 毎日出版文化賞書評賞(「新版 熱い読書 冷たい読書」に対して)

平成28年 恩賜賞・日本芸術院賞(「小説を中心とする多年にわたる文学的業績」に対して)

詩歌

う だ き よ こ
宇 多 喜 代 子



推薦理由

氏は、第一句集「りらの木」（昭和 55 年）で新興俳句系の有力な作者として認められて以来、たゆみなく活発に活動しつづけてきた。現代を生きる女性の生活感覚をこまやかに織りこんだ作風は、数多くの句集を一貫して彩っているばかりでなく、しだいに熟達を深めてゆく跡が、そこには顕著にあらわれている。更に句作の実績のみならず、評論活動の面でも氏は多くの業績を積みかさねてきた。「古季語」の発掘に努めた功績は、とりわけ特筆に値するものと思われる。また現代俳句協会会長の職を務めるなど、現代俳句の世界の充実発展のために大きく貢献してきた事績も高く評価される。

【略歴】

昭和 10 年 10 月 15 日 山口県生まれ 81 歳

昭和 31 年 武庫川学院女子短期大学（現・武庫川女子大学短期大学部）家政科卒業

平成 6 年 現代俳句協会評論賞選考委員（同8年現代俳句協会賞選考委員，同12年現代俳句大賞選考委員，同24年まで）

平成 8 年 読売新聞俳壇選者（現在まで）

平成 11 年 NHK俳壇選者（同12年まで，同17年NHK俳句選者，同18年まで，同24年「俳句さく咲く！」選者，同25年NHK俳句選者，同27年まで）

平成 12 年 現代俳句協会副会長（同18年会長，同24年特別顧問，現在まで）

平成 14 年 蛇笏^{だこつ}賞選考委員（現在まで）

平成 14 年 芸術選奨選考審査員（同15年推薦委員，同17年選考審査員，同21年まで）

平成 15 年 全国農業新聞俳壇選者（現在まで）

平成 19 年 国際俳句交流協会顧問（現在まで）

平成 21 年 桂信子賞選考委員（現在まで）

平成 24 年 酒折連歌^{さかおり}賞選考委員（現在まで）

【賞歴】

昭和 58 年 現代俳句協会賞（句集「りらの木」に対して）

平成 13 年 蛇笏^{ぞう}賞（句集「象」に対して）

平成 14 年 紫綬褒章

平成 20 年 旭日小綬章

平成 24 年 詩歌文学館賞・俳句（句集「記憶」に対して）

平成 26 年 現代俳句大賞

平成 28 年 日本芸術院賞（「長年にわたる俳界における実作・評論の業績」に対して）

(1) 概要

日本芸術院は、日本芸術院令第3条に基づき、芸術上の功績顕著な芸術家の内から補充すべき会員を毎年会員による選挙を行い決定しています。

日本芸術院は、その前身である帝国美術院が森鷗外を院長として大正8年に創設されて以来、現在まで約100年の歴史を持ち、日本芸術院会員への選考は、美術、文芸、音楽、演劇、舞踊等の芸術各分野の芸術家から栄誉あることとして広く認識されています。

日本芸術院会員は、一般職の国家公務員（非常勤）で、年金額は250万円、任期は終身です。

(2) 選考方法

日本芸術院会員候補者の推薦は、毎年度、日本芸術院会員により行われ、全会員で組織する会員候補者選考委員会において選考します。日本芸術院は、各部における選考、総会による承認をもって会員候補者を決め、その候補者について、各部において会員による投票を経て、総会の承認を得ることにより決定します。

(3) 選考経過

平成28年8月26日から9月9日までの間、日本芸術院の会員に対し候補者の推薦を求めたところ、第一部（美術）4名、第二部（文芸）10名、第三部（音楽・演劇・舞踊）2名、合計16名の推薦がありました。

平成28年10月21日に開催した全会員で組織する会員候補者選考委員会において、16名の被推薦候補者の中から、第一部3名、第二部10名、第三部2名、合計15名の会員候補者を選考しました。

会員候補者15名について、平成28年10月21日から10月28日にかけて、各部において投票を行い、平成28年11月2日開催の部長会議において開票した結果、第二部2名が部会員の過半数を得て当選し、会員候補者に内定しました。

内定者について、書面による会員総会の承認を経て平成28年11月16日会員候補者として決定しました。

(4) 上申

上記会員候補者2名について、文部科学大臣に上申しました。

(5) 会員数

芸術院会員（定員120名）は、第一部（美術：定員56名）は現員46名、第二部（文芸：定員37名）は現員27名に2名加わり29名、第三部（音楽・演劇・舞踊：定員27名）は現員26名となり、現員101名となります。